

会員数は原動力

(社) 埼玉県放射線技師会

副会長 堀江好一



はじめに、5月28日の総会にて、公益社団法人に向けての定款変更の案と、関連する諸規程の案についてご承認をいただけたことを深く感謝したい。2年続けて、委任状含めて4分の3の

出席という高いハードルをクリアできたのも、ひとえに会員の皆さまの協力があってこそ実現できたものと思う。

さて先日、本会と日放技共催による「診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー」に参加してきた。日曜日だというのに、プライベートな時間を割いて勉強をしに訪れる人々の姿に素直に“エライ”と思った。多くは職場の先輩に背中を押されて（またはパワハラ？）出席してくれたのだろうが、皆、ハキハキしていて礼儀正しい。このような人たちが将来の技師会を背負っていくのだろうと漠然と感じ、「～みんな、入会してくれ～」と念じた。

手前味噌ではあるが、このセミナーではフレッシュャーズを待ち受ける講師陣もまた、良い先輩ばかりだ。ここ数年の間に講師陣も「おとうさん」から「おにいさん」くらいに若返ってきている。若いだけでなく知識も豊富でプレゼンも上手い。埼玉って人材が豊富だなとつくづく思った。

話は変わるが、先の定期総会において、小川会長が「日放技は会員の高齢化が著しく、このままでは会員数が激減しかねない。」と日放技の窮状を説明されていた。日放技では40歳代と50歳代の会員の占める割合が非常に高く、若い人が入会しないという状況になっているようだ。あと10年、20年経つと当然、会員数が減ってしまうことになる。では、埼玉はどうなのだろうと思って調べてみた。

埼玉と日放技では少々年齢構成が違っており、埼玉は30歳から45歳くらいの会員が多いこ

とがわかる。言い方を変えれば、日放技に比べ若い会員が多いということだ。会員の大半は就職後間もなく入会していると思われるので、10年くらい前までは、就職したら技師会に入るのが当たり前という雰囲気があったのではないかと思う。ところがここ数年は新卒者の入会が次第に減ってきている。何故なのか。

今の世の中、慢性的な閉塞感や価値観の多様性などいろいろあるとは思いますが、私は、技師会の重要性を伝え、後輩の背中を押す会員が減っているということが最も大きな原因だと思う。

この巻頭言を読んでくれている皆さまは会員だと思う。ご自分のご子息や弟妹が診療放射線技師になったとしたらきっと「技師会には入った方がいいよ」と言うのではないだろうか。もしそう考えるなら、ぜひ、部下や後輩にも技師会への入会を勧めていただきたい。

会員が力を合わせて医療の質の向上に寄与してこそ、国民から診療放射線技師という職業を認められる。フレッシュャーズセミナーや講習会を開催することは、目的を達成するための手段に過ぎないと私は思っている。たとえ講習会に全然出なくても、会誌を読まないで捨ててしまっても、会費を納めるという行為そのものが技師会の目的に賛同しているという意思表示になる。

数は力なり。

